

年を重ねても止められない

22年9月7日

和田 宏

活動的な楽しみに関する事で、年を取ったら止めた方がよいとされていることは多々ある、その理由は、体力が低下している、疲労回復に時間が掛かる、瞬発力が劣る、等々で、より安全に暮らせ、と言われる、更に集中力、判断力も鈍いと指摘されればやれることは大変制限されてしまう。これまでトレーニングを重ね楽しんでいたことを止めるのか、内容を変えてもう少し続けるのか？小生はウィンドサーフィンを60歳で止めた（パラグライダーはその頃勧められたが踏み込まなかった）、

今回はバイクツーリングについて書いてみたい。

歳を取ったら、遠距離は控える、大きく重いバイクは避ける、のが賢明であろう、現在の愛車はカワサキ：エストレヤ250cc、50歳で「カムバック」して、ナナハン、リッターバイクも楽しんでその後、68歳から年齢と共にサイズダウンを続けてここにたどり着いた、125ccが魅力的だが高速道路を走れないから問題である。

グループでツーリングすると、4気筒のリッターバイクや「R」のエンブレムを付けた速いバイクがメジャーであるから、こちらも「遅い」と言われぬ程度の走り方をしなければならない、言葉を換えれば、250ccは何時もすばやい操作とフルスロットル走行を強いられることになるが、これも楽しみ方の一つである、

操作は両手両足と旋回する時の体重移動等緊張感の持続が求められる、ここに着目してボケ防止の効果を調べている教授がおられるそうだが、ボケたら直ぐ結果が出るのは想像に難くない。

雑多な集団であるが、走り始めると、これらがなんとなく調和して群れとして移動するのが醍醐味である、前を見てもリヤビューウミラーに写る後続車も、ゆったりとした姿勢で雁行している。

何を着るかは悩む、スポーツカーをサーファーパンツで運転しても見えないから良いがバイクライダーには許されない。

暑い夏でも、涼しさと紫外線忌避を両睨み、プロテクターは必要であるが強いものは暑い、今回「南海」の皮パンツを新調したが、選択した理由はバイクショップで出会った友人が「Gパンはいざという時役に立たない」と強く勧めたからである、

「ワイズギヤ」のフルフェイスヘルメット、「ワインガードナー」のプロテクター付メッシュの長袖、「南海」のブーツにした。集合場所で確かめると皮パンツは小生のみ、走っているとそれほどでもないが信号待ちの暑さは耐えかねる、昼過ぎから十分濡らしたタオルを首に巻いたら効果あり、やってみるものである、濡らすインターバルは約2時間。

この暑い最中に何処に行ったのか語らねばなるまい、八ヶ岳高原である、山裾のペンションシに泊まってしばしの冷気を楽しむための往復580km。

浜松からR257を北西に走って稲武からR153、長野県に入って平谷村で休憩と給油、飯田山本ICから中央道に乗り駒ヶ岳SAで昼食、伊那から地方道で高遠へR152、R20を北上して快晴のビーナスライン、白樺湖の眺めを楽しんで、原村のペンションへ17時着、標高1300mは涼しい。300km。

翌日は富士見高原スキー場（リフト下の広大な駐車場、標高1000m）で行われるバイクミーティングに参加、記念写真が済んだところで馬上の人となり八ヶ岳高原道路を少し走って南下、須玉ICから中央道、双葉Jから中部横断自動車道を南下、本栖湖をかすめて朝霧高原で小休止するが富士山は見えない、富士から東名に乗って富士川SAで夕食、車庫に到着したのは19時30

280km、燃費は35km/リッター。

二日間は何もしないで休養を採ったら元気回復、体が軽くなった感じで、やる気になった、次に所有するバイクはD-トラッカー125かもしれないが、現エストレヤを改良してもう少し乗るとしたら、アロイホイールとスリックタイヤでルックスを引き締め、オーリンズのサスペンションで脊椎を^{いたわる}労わる、予算は掛かるが楽しくなりそう、止めるのはいつでもできる。 以上



9月5日 カナディアンファーム熱気球練習場にて